



Botswana Medical Information



2018年9月

医療トピックス

【ボツワナ国内における下痢症の流行について】

1 ボツワナにおける下痢症の流行状況と発生地域

今年の9月以降、5歳以下の子供のロタウイルスを原因とする下痢症患者が非常に多く発生しています。10月中旬時点で、全国の患者数は下降傾向にありますが、地域単位で見ると、まだハボロネ、ノースイースト地区、カニエでは流行しています。

2 下痢症の症状、治療、予防について

ロタウイルスを含めた感染性の胃腸炎は、患者の便や吐物に含まれた原因ウイルスや細菌等が付着した手、食品、水、物品を介して、口から入ることにより発症します。

嘔吐、下痢が出現した場合、まず水分と電解質（スポーツ飲料水や薬局で販売しているORS

（Oral Rehydration Solution，経口補液剤）を十分摂取してください。下痢、嘔吐、発熱、腹痛、脱水等の症状が強い場合は医療機関を受診してください。

ロタウイルスにより起こる胃腸炎は、主に乳児、幼児に発生し、大人は小児期に感染していることが多いため、無症状や軽症であることが多いです。

予防として、石けんを使用した手洗い、水の煮沸を励行し、衛生状態の悪いところでの外食や生もの摂取を避け、食品を十分に加熱し調理後すぐに食べることに注意してください。

3. 参考資料

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/Rotavirus/index.html>（ロタウイルスに関して）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>（ボツワナの医療事情や医療機関情報に関して）

新聞報道抜粋

●サウスイースト地区のティーンエイジに多い HIV 感染症

サウスイースト地区 15 歳から 19 歳の HIV 検査を受けたティーンエイジャー 577 人のうち 41 人が HIV 陽性であった。(17 日モニター紙)

●下痢により子供 6 人が死亡

保健大臣はメディアに対し、過去 5 年間で最も患者数が多い 1766 人の下痢症が発生したと報告した。27 のヘルスディストリクトのうち、下痢の報告があったのは 6 地域であり、死者はマハラペ、セロウェ、ナミ、ボテティから報告された。国家緊急事態チーム (National Rapid Response Team NRRT) がアウトブレイクに対応している。下痢の原因はまだ明らかにされておらず、ロタウイルスの可能性は否定でないが、現時点では確定もしておらず、原因究明中。手洗いの励行、飲み水の煮沸を行うことを勧めている。

(19 日デイリーニュース紙)

●医療用語のツワナ語への翻訳について

結核はツワナ語で “Thibamo” または “Boswagadi” と呼ばれ、どのようにして感染したかと信じられている理由により区別される。

例えば “Thibamo” は出産した子供の位置に異常があった女性と性的関係を持ったことが原因と考えられている。“Boswagadi” については、死亡した配偶者を正式な洗浄で弔わなかった女性と性的関係を持ったことが原因と考えられている

これらの例は伝統医学と現代医学の病気の概念や原因の考え方の違いを示すものだ。

現在ザンビアでコレラが流行し、ボツワナでも下痢症が流行しているが、どちらも同じツワナ語 “Lelhatso le letshololo” が充てられているのは問題である。ツワナ語にない言葉は外来語を借りることも検討しなければならず、保健省は医療用語をツワナ語に標準化する対応をとるべきだ。(15 日—21 日ウィークエンドポスト紙)

●空腹と HIV テスト陽性の関連性—南アフリカの研究

南アフリカにおける研究によると、HIV 検査を受けた 2742 人のうち、過去に空腹状態であった事は、HIV のテストを受けない事や、検査を受けると HIV 陽性のリスクがある事と関連していることが分かった。

サブサハラにおいて、食料確保の不安定さと HIV の関連性は、リスクある性行為をとることや抗ウイルス治療薬への遵守と関連することが指摘されている。

スワジランドとボツワナでは、食料確保の不安定さはコンドームの不使用率と関連がある。南アフリカでは HIV 治療を受ける人の最大の不安は常に食料があるわけでない為、空腹で治療薬を内服しなければならないということである。

この研究は、食料確保の不安定さと HIV 検査行動に関連する南アフリカで初めてのエビデ

ンスとなる。(16-22日サンデースタンダード)

●下痢症に関して

下痢症のアウトブレイクから2週間経過し、感染者数、特に5歳以下の小児に増加している。9月19日現在、Mahalapye地域592例、Bobirwa511例、Gaborone458例、Boteti435例、Ngami250例、Kweneng East232例、Francistown205例、Selebi-Phikwe 221例、Tonota193例、Chobe 68例が報告されており、広範囲に広がっていることが示唆される。死者は11人となっている。(ボツワナ政府フェースブック 20日)

●ボカモソ病院にて核医学が開始される

ボツワナでは初めて核医学が行える事となり、患者を他国へ依頼するコストの軽減につながる。(21日デイリーニュース)

●ボツワナ小児癌・血液センター (BCCHC) 創設にあたり、ベイラー大学と協力関係を結んだ

米国訪問中のマシシ大統領はテキサス小児病院とベイラー大学を見学した。ボツワナでは毎年300人の小児癌が発症し、過去74ヶ月で12000人の患者を南アフリカの病院へ搬送しているため、BCCHCは小児の生存率を高め、専門医の育成を行う事へ繋がる。以前よりボツワナ・ベイラー小児クリニカルセンターオブエクセレンスから、小児HIV感染に対して協力を得ており、ベイラー・ボツワナ、ベイラー国際小児HIVイニシアチブにより今まで2300万ドルの援助を受けている。(25日デイリーニュース)

●下痢のアウトブレイクによりナミにて一人死亡

ナミ地区にて9月10日の週より下痢症状が200人発生し1名死亡した。

患者の多くは3歳以下の子供である。

またナミ地区はマラリア発生地区であり、17年~18年のシーズンでは4月に最後の発生があり、合計60例が報告された。(26日デイリーニュース)

●長期間作用型 HIV 暴露前予防注射薬の治験が再開

昨年末から中断されていた、新たな HIV 暴露前予防注射薬カボテグラビルを内服薬テノビル/エムトリシタビンと比較した HIV Prevention Trial Network(HPTN)084 が再開したことがボツワナハーバードAIDS機構治験コーディネーターにより明らかにされた。HPTN 084 はサブサハラのアフリカの18歳から45歳のHIV感染リスクのある女性3200人の参加を募集し、ボツワナでは200人の参加を見込んでいる。(28日メヒ紙)

文責: 高原 野草 (在ボツワナ日本大使館医務官)